

mMathNote 使用上の注意

担当: 植松哲也(riko1bl@meijo-u.ac.jp)

- (1) この注意書きを mMathNote の 表紙裏に貼付すること。
- (2) 「第〇回 (2016/mm/dd)」 (mm/dd は講義日の日付) と書いてから、解答を始めること。
- (3) 問題文を書くこと。
- (4) どう考えたのかわかるように途中式を書くこと。
- (5) 式を羅列せず、日本語を補うこと。例えば、以下のように書くこと。

「〇〇と仮定すると、…である。

したがって、定理 A より、 $\triangle\triangle$ となる。」

- (6) どれが最終的な答かわかるようにすること。
- (7) 読みやすいように詰め過ぎず、丁寧な字で書くこと。
- (8) 必ず答え合わせをすること。
- (9) 分からない場合は周りとは相談する、質問を書くなどして疑問点の解決に努めること。
- (10) ノートには何も挟まないこと。